

来年度の理解醸成等の実施計画（案）について

令和5年3月8日
環境省

目次

1. 前回のC Tにおける委員からの主なご指摘事項について . . . 3
2. 来年度の理解醸成活動計画（案）について 5

1. 前回のCTにおける委員からの主なご指摘事項について①

ご指摘の内容

【理解醸成の対象やねらい、効果の明確化等について】

- 取組が、誰をターゲットにしているか、何を目標にしているのか明確にしていたきたい。
- 若者は間違いなく大事であるが、2024年までに再生利用のロードマップを決めなければいけないので、今の世代にもアピールし、分かっていたらかなければならない。
- 対話フォーラムの会場に来られている方、アンケート調査でも、年齢層高い人が結構多い。手法で、いろんな年代の人にアプローチしていくやり方は確かに重要。
- 企画が社会にどのようにアウトカムとして発展していったか、今後見ていくべきではないか。

【対話フォーラムについて】

- 集まった方と、登壇の方々の（直接の）対話の場というのがなかった気がする。もう少し対話の時間を長く取っていただけるとありがたい。
- フロア、あるいはオンライン参加の方の質問をできるだけ受けていこうという姿勢は、徐々に回を重ねるごとに出てきている。参加者を絞った車座形式のようなやり方というのは確かに一つあるが、人数が限られてくる。
- (対話)ボードの直接の意見を解析することにより、今後どういうことをしていったらよいかが見えてくるのではないか。
- チャットのほうがやや厳しめの意見があるように見え、当日の付箋とか、アンケートはそんなに過激に否定的な人はあまりいなかったのではないかという感触だが、傾向を押さえていただきたい。
- 中間的なサイズの市民参加ワークショップの手法で、同時に小集団で議論するような場のつくり方がある。
- 今のこのやり方で自分事まで行けるかというのはちょっと難しいところがあり、工夫が必要と思う。車座でもそれを誰がどういう形でやっていくのか、裾野が広がっていくと考えなければいけない。

1. 前回のCTにおける委員からの主なご指摘事項について②

ご指摘の内容

【自治体への取組について】

- 自治体の方々が自分事として捉えるのか、自分事じゃないのかが重要なポイントになってくるので、説明の仕方、意見聴取もうまくできるとよい。
- 行政の会議で、「こういう取組をしている」と紹介し、「少し課題がある」と徐々に紹介するソフトランディングでしっかり伝えていただければと思う。

【現地見学会について】

- 現地に来ていただければ、よりポジティブに肯定的に意見が変わるという話は毎年出てきているので、続けていただきたい。現地に来られなくても対話フォーラムをすれば意見が出てくるので継続していかなければならない。

【学生向けの取組について】

- 学生向けの講義やワークショップは、教育として意義があり、この機会は非常に重要と思っている。

【地域の歴史・文化や思い・記憶等の継承について】

- 中間貯蔵施設の見学等で、技術的な面に加え、その土地の歴史、人々の気持ち、記憶も伝え、未来を考えていくのがいいのではないかと。
- 対話フォーラムで、首長さんや住民の方の動画が流れ、非常にいいのではないかと思っている。例えば、事前学習として紹介するとか、工夫があると確かにいいのかもしれない。
- 冊子「福島環境再生100人の記憶」を用いるとか、工事情報センターのデータを活用するのが重要。

2. 来年度の理解醸成活動計画（案）について①

来年度の取組のに当たっての主な考え方

- 令和5年度は、その次年度に戦略目標年度（2024年度（令和6年度））を迎えることを踏まえ、再生利用・県外最終処分に係る全国的な理解醸成に向けて、各世代の認知・理解を更に進めていく必要。
- 今年度のWEBアンケートの結果、理解醸成等の取組に係る効果検証の結果及び前回のCTにおける各委員からのご指摘等を踏まえ、来年度の理解醸成等の取組については、以下の点に留意して進める。

【世代別の取組におけるアプローチの考え方】

－若年層は引き続き認知施策に、中高年層は理解や参加施策にも重点。

【対象の拡大】

－自治体等も理解醸成の対象として取組を推進。

【共有/拡散の取組強化】

－今年度効果があったと思われるメディアとの連携の推進。

－共有/拡散の効果が期待されるSNSの活用を推進。

－次世代によるSNS等による共有/拡散によるアウトプットも推進。

【取組の改善・深化】

－対話集会の方式や進め方などを改善。

－現地見学会等における地元の思いや文化/歴史等の伝承も検討。

2. 来年度の理解醸成活動計画（案）について②

対象・ねらい	効果	主な取組案
全世代	認知・理解	<ul style="list-style-type: none"> □ 対話集会の実施（対話フォーラムのほか、小規模な車座対話の試行的実施を通じて、対話集会のあり方（規模や対話の方法等）について検討を進める。） □ 除去土壌を用いた鉢植えの設置拡大
	参加	<ul style="list-style-type: none"> □ 現地見学会（中間貯蔵施設・飯舘村長泥地区の環境再生事業）の実施 □ ホープツーリズムとの連携
	共有/拡散	<ul style="list-style-type: none"> □ 対話集会やツアーの参加者等を通じた情報発信
次世代(学生等)	認知・理解	<ul style="list-style-type: none"> □ インフルエンサーの活用等によるSNSや各種イベントを通じた広報の実施 □ 大学・高校等への講義の実施
	参加	<ul style="list-style-type: none"> □ 大学生や高校生等による現地ワークショップ、次世代ツアーの実施
	共有/拡散	<ul style="list-style-type: none"> □ 講義やツアーの参加者等を通じた情報発信
現役世代	認知・理解/ 参加	<ul style="list-style-type: none"> □ 企業向けセミナーや現地見学会の実施 □ 関係する学会等との連携
自治体	認知・理解	<ul style="list-style-type: none"> □ 自治体出席の会議における取組説明 □ 現地見学会の実施
メディア	認知・理解	<ul style="list-style-type: none"> □ （国内外）プレス向けツアーの実施
海外	認知・理解	<ul style="list-style-type: none"> □ 国際会議等での情報発信、IAEAとの専門家会合の実施